



平成23年度 ブラジル通信
 11月12日(土)~11月18日(金)
 No. 11
 発行者: 宮本 朋子

マリンガ市の学校紹介

マリンガ市には、47の初等学校があり、そのうち1日制の学校は2校しかありません。しかし、ゆくゆくは市内全部の学校を1日制へ移行していこうと、現在10年計画でマيسエデュカッソンというプロジェクトを進めています。これは、2部制の学校の中に、一部の児童が1日制をとっているもので、半日教科学習を行い、残りの半日は活動中心の学習を行っています。現在マيسエデュカッソンをしている学校は16校ありますが、学校によって取り組みに違いがあります。そこで、来年度から1日制になることが決まっている Nadyr Maria Alegretti 初等学校を例にあげて紹介したいと思います。



Nadyr Maria Alegretti 初等学校		
	2部制	マيسエデュカッソン(1日制)
職員数	校長、教務担当、生徒指導担当、マيسエデュカッソンコーディネーター、図書担当、事務職員、お手伝い各1人 正規教員42人、外部講師6人、大学生11人、清掃員&給食を作る人3人など ・マリンガ市では他都市と異なり、校長先生の選挙はありません。親や教師によるアンケート調査(評価)や面接、履歴書(実績)等をもとに、 市長が校長先生を選びます 。また、 教務担当や生徒指導担当など 、学校の中心となる人材も 市長が選任します 。 ・ 教員採用試験は 、人材が必要となしにだけ行われるため、 3~4年に1度しか試験が行われません 。また、大学を卒業しないと受けることができず、合格しても成績順に採用されるため、2年ほど待たなければならない人もいます。 ・パラナヴァイ市と同様、授業研究や教材準備の時間が、 勤務時間内に週4時間保障 されています。	
児童数	300人	350人
1クラスの児童数	1年→→→→→25人 2年→→→→→30人 3年以上→→→35人	
教科	ポルトガル語、算数、歴史、地理、理科、美術、体育 上記の科目を学習。   美術では、工作をしたり、絵をかいたりしています	上記の科目を半日行い、残りの半日は活動中心の学習(コーラス、文学、ダンス、コンピュータ、スポーツ、工作、手芸、調理、レク、理科の実験、補習(宿題)、APOIOなど)。 ※SESCやSESIという団体から指導者が来て、教えていました。折り紙の授業も行われていました。
時間	午前の部: 7:30~11:30 午後の部: 13:00~17:00 ・授業以外の半日は、遅進児指導をするクラス(APOIO)が設定されています。	7:30~17:00 ①午前教科学習、午後活動 ②午前活動、午後教科学習 ・①と②のように、2コースに分けています。 ・授業は、教科学習5時間と活動4時間です。

食 事	食事は2回ずつ (午前：朝食&軽食、午後：軽食&夕食)	食事は5回 (朝食、軽食、昼食、軽食、夕食)
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級が週2～3日、2時間ずつ開かれています。(障がいのレベルによって日数が異なります。)この学級には、知的障がい者15人、身体障がい者2人、全盲1人、弱視児6人がいます。そのため、市から点字の先生が派遣されています。 ・夜(18:30～22:30)には、大人を対象とした学校(CEEBJA)が開かれており、20歳～80歳までの18人の生徒が勉強しています。全て無料で、早い人は2年で修了します。 	
支給されるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・パラナヴァイ市と同様に、教科書、ノート、学習用具(鉛筆や消しゴム、ふでぼこなど)、体操服、リュック、連絡帳など、全て市が支給してくれます。食事代も無料。学習用具は、家に持ち帰ると、なくしたり親が勝手に使ってしまったため、学校で保管しています。 	

この学校を訪問したとき、ここは日本の学校?と思うことがありました。それは歌声です。今までも児童の歌を聞くことはありましたが、合唱は初めてでしたので、驚いたのと同時にうれしくも思いました。また、マリంగాの初等学校では、美術の学習を大切にしており、どこの学校を訪問しても、校内が児童の作品であふれていました。しかも、身の回りにある資源(材料)を工夫して使った作品が多く、子どもたちの豊かな想像力を生かす指導がされていました。このような教育ができるのは、マイスエデュカッソンを取り入れているためですが、空き教室がないため、全児童を対象にすることができないのが現状です。希望者はとても多く、親が仕事をしている児童などを対象に選定しているようですが、1日制への移行を考えると、施設の改善を早急に進めていく必要があると思いました。



市から支給される学習用具



折り紙で作った鳥



使用済みコーヒーパックの花びら



布きれを縫い合わせて作った髪



点字タイプライター

目のマークがポイントです



図書館にある点字の本

L B V 訪問

L B V : Legião da Boa Vontade

61年の歴史をもつL B Vという施設を訪問しました。L B Vとは、貧しい地域の子や親が働いている子のお世話をする児童クラブのようなところで、6歳～12歳までの約100人の児童が学校のない半日をここで過ごしています。この施設は、ブラジルに70ほどあり、南米を中心にポリビア、アルゼンチン、パラグアイ、アメリカ、ポルトガルなどにもあります。中には、学校として成り立っているところもあり、サンパウロのL B Vは、3ヶ月～17歳までの約2000人の子どもたちが通う1日制の学校となっています。世界中からの寄付金で運営されているため、制服やかばん、教材、食事など、全て無料です。子どもたちはここで、宿題などの勉強をしたり、スポーツをしたり、遊んだりして、集団生活における規律を学んでいます。

また、60歳以上の高齢者を対象とした体操教室やスポーツ広場の貸し出し等も行っています。もちろんこれも全て無料。今後は、他地域の児童も通えるよう、バスの運行を計画していきたいそうです。



僕たちと一緒に遊ぼうよ!

初めての観光旅行「ポニート」 スクリー川

ブラジルに来て2カ月半。様々な顔をもつブラジルをもっと知りたいと思い、マツグロッソ・ド・スウ州にあるポニートというところに行ってきました。ポニートとは、ポルトガル語で「美しい」「かわいい」「きれい」という意味をもつように、天然の水族館のように美しく澄んだ川や自然を満喫できる魅力的な町です。現地のバス旅行に参加したので、私とパラナヴァイ日本語学校の先生以外は、みんなブラジル人で、ガイドさんの説明も全てポルトガル語でした。最初はとても不安でしたが、バスの中での自己紹介タイムでは、私のつたないポルトガル語にも温かい拍手で応えてくれ、みんなと仲良くなることができました。



シュノーケリングに初挑戦☆



悠々と泳ぐ魚に感激しました

ポニートでは、6つの滝のある滝公園で泳いだり、ボートでラフティングをしたり、洞窟探検に行ったりしました。特に心に残ったのは、シュノーケリングです。透明度の高い川で魚と一緒に泳いだときは、魚になったような気分を味わうことができました。また、夕食には、ワニの肉にも挑戦しました。ブラジルの自然の美しさを体験でき、とても充実した旅行でした。

滝公園の「愛の滝」



滝つぼでも泳ぎました

青の洞窟



神秘的に輝く青い氷がきれいでした



陽気な仲間と♪

ラフティング



滝を落ちる瞬間がスリル満点!



公園の池にも巨大な魚が...



ぶらっとブラジルク・イ・ス♪

ポニートの町を歩いていると、巨大な生き物が町の至るところにいました。これは一体何でしょう？

- ① 公衆電話
- ② 記念撮影用の顔出し看板
- ③ 募金箱



お店の入り口に魚？



町になしんでいる
ブラジルの鳥トッカー!



今にも飛びついてきそうなのよ♪

答え：①

(ブラジルでは、町の至るところに公衆電話があります。そのほとんどが右の写真のようなもので、見た目から Orelhão (大きな耳) という愛称で親しまれています。また、観光地に行くと、動物型のユニークな公衆電話を見つけることができますよ。)



町中にある公衆電話

カード式の電話です



動物のお腹に公衆電話があるよ

